

令和5年度第1回大阪府立江之子島文化芸術創造センター指定管理者評価委員会概要

日 時: 令和5年6月 26 日(月)15:00~16:30

場 所: 大阪府立江之子島文化芸術創造センター room8 (オンライン参加含む)

出席委員: 木ノ下委員長、大矢委員、坂上委員、土屋委員

【議事概要】

1 開会

2 議題

(1) 評価の方法及び実施時期について

(2) センターの運営状況及び評価基準(案)について

3 閉会

◎主な意見等

- 委員長 : 指定管理者から現在のセンターの運営状況等について、事務局から評価基準(案)について説明がありました。委員の皆様からご質問やご意見等お願いいたします。
- 委員 : 作品のコンディションチェックについて、年間 2,000 点の目標に対して現在の進捗状況を教えていただきたい。
- 指定管理者 : 4 月~6 月の実績として 440 点チェックしている。
- 委員 : それらは既に箱から出ている作品や展示されている作品等、比較的チェックしやすいものから手際よくということか。
- 指定管理者 : 作品数も多いのでチェックしやすいものを優先的に実施している。
- 委員 : そのペースで実施していただければ。約 8,000 点を 5 年でチェックすることとはすごく大変なこと。そのペースで継続できればいい。
- 指定管理者 : 月 5 日程度収蔵庫で作業している。今後の企画展で展示予定の作品も含めて、学芸員が箱を開けて見ることができる範囲のものから実施しており、業者の方が来た時には大きい作品や、梱包されている作品を確認したりしている。
- 委員長 : ありがとうございます。コレクションの確認方法についての質問でした。委員の方々、他に質問等ありますでしょうか。
- 委員 : 目標値との関連で何点かお伺いしたい。
まず貸館利用率について、昨年度の多目的ルーム1~4の実績が 71% に対して今後の目標値が 60%とやや低めの設定となっていることについて説明してほしい。
- 指定管理者 : ルーム 1~4の昨年度実績が 71%となっているが、昨年の目標値は 50%だった。71%が驚異的な数字だと考えている。感染症の影響や他の

貸館施設が閉館中ということもあり、enocoの展示室利用が増えたものと考えている。非常に高い数字なので、今年は通常に戻っていくことも考え、前年度の目標値から+10%増の目標設定とした。

ルーム5～12については、昨年度実績が61.4%なので、実績値+5%増を今年度の目標値に設定している。

委員 : 昨年度の目標値に対して実績が様々な要因もあり高かった、目標値を通常に戻したということか。

指定管理者 : そういうこと。

委員 : 分かった。

指定管理者の説明の中で、YouTubeの配信の話があったが、YouTubeの登録者数をSNSの目標値に加えてもいいのではないか。

指定管理者 : YouTubeに関しては、良質なコンテンツを皆様に見ていただく媒体と捉えている。昨年アップした大林氏のトークイベントの動画は、1時間5分ほどの動画が、再生回数は2,300～2,400回だった。短い時間の動画を何本も更新して登録者数を増やすということではなく、イベント等の生配信や優良なコンテンツを配信するための媒体として活用していく方向で運営している。

委員 : 再生回数ではなくチャンネル登録者数を評価基準の目標設定に入れることに関してはどうか。

指定管理者 : チャンネル登録者数を評価基準に入れることは再度検討していきたい。ただ内容に関しては短い動画を何本も更新して登録者数を増やすことよりも先ほど申し上げた優良なコンテンツを配信できる媒体として活用していきたいという思い。

委員 : 分かった。

委員長 : 他の委員の方がいかがでしょうか。

委員 : 事業計画書の収支計画について、赤字部分の内容について教えてほしい。前年度の評価委員会にて、令和4年度は指定管理者1年目で体制整備のために非常勤の雇用で費用がかさんでいて、令和5年度は常勤の雇用になるので人件費抑えられると説明いただいていたが、この点についてはどうか。

指定管理者 : 昨年度から学芸員が1名増えている。非常勤職員の雇用による余計なコストはかかっていないが、良質な運営のための配置ということで、今年度このような人件費の計画となった。

委員 : 指定管理者から人件費の説明があったが、計画段階でこの金額の赤字は管理運営上健全とはいえない。

- 事務局 : 令和3年度の貸館収入実績から今年度の貸館収入見込み額が約 400 万円増、一定吸収できる部分もあるのではないかと。
- 指定管理者 : 令和4年度からの変更点としては2階のシェアルームを長期貸出という形式に変更している部分で約 50 万円減。
3階収蔵庫の空調工事で美術品を4階に一部移動させる。4階の展示室の貸出停止期間が3か月に対して約 330 万円減。足して 400 万円弱の収入減というのが令和4年度からの変わる部分。
- 委員 : 人件費が主な赤字収支の原因であるならば、今後も恒常的に赤字運営になるのではないかと。具体的な改善計画があれば聞かせて欲しい。
- 指定管理者 : 赤字収支は許されることではないという認識はしている。ただ指定管理者制度はどんどん指定管理料が減っている現状がある。数字合わせはできるが、現状を見ていただきたいということで、赤字ではあるが1年間施設を運営するとこれぐらい費用がかかるということ。単年度で見れば収蔵庫の空調工事に係る貸館の停止期間は解消されるが、その後の費用削減については今年1年かけて具体的に検討していきたい。
- 委員 : 計画の対処案、釈然としない部分もあるが現状については理解した。
- 委員 : 一旦現状は分かった。
- 委員 : 行政の税金を使った施設であるため、赤字運営は委員としては健全ではないという評価にならざるをえない。
- 委員 : 収支について懸念がある状況。人件費が大きな原因。もう少し改善のための計画を示していただきたいかった。
- 指定管理者 : 十分承知しております。健全化を図りたい。
- 委員 : 収支が厳しい状況の中で、助成金や補助金の申請について教えてほしい。
- 指定管理者 : 来年度、福祉関連の展覧会を実施予定。そこにつなげるために9月に「くりかえしとつみかさね」というテーマで企画展を実施。関連する助成金等検討していきたい。
- 委員 : 分かった。
- 委員 : 収支計画の赤字は人件費が主な理由。1300 万円の赤字なので補助金では吸収しきれない。抜本的な運営のシステムの対策案を今後示してほしい。
- 委員 : サポートできる企業が現れるといいかとも思う。補助金については分かった。
- 委員長 : 収支について他に質問等ありますでしょうか。また事業に関しても質問等あればお願いします。
- 委員 : 質問ではなくコメントとなりますが、プログラム関係では子ども、次世代の

担い手育成に関する事業に力を入れていて、素晴らしいと思う。学芸員さんがいろいろ企画したり、タレントさんも登場したり、アカデミックなタレントさんもいたり人選も工夫されている。

SNS の目標数値について、それぞれ目標値を掲げていることは大変いいことだなと思った。Instagram はもうちょっと数値のびるのではとも思う。

SNS の配信回数についても、目的別に書かれていることは素晴らしい。実際には 3 日に 1 回とかのペースで更新することになり大変だと思う。

Facebook、Twitter、Instagram、あと YouTube の数値もさきほど話にでたが、媒体を合算しての数値なのかそれぞれ数値目標があるのか、考え方を教えてほしい。

指定管理者 : SNS に関しては、基本的には総合力と思っている。ただ Youtube についてはまた違う媒体として、良質なコンテンツを見ていただくためのものと捉えている。その他 SNS に関しては、この施設を認知していただくことが主な目的。学芸員とも協力して積極的に発信していきたいと思い、この目標数字を出した。現在は 1 日 1 投稿を目指している。投稿内容がなくても例えば施設の様子、利用者の様子、天気の話であるとか、何か発信するという方法で進めている。

委員 : 次世代の育成というところで、小学生までの年代を対象としたイベントは熱心に取り組まれている印象。一方、大学生の年代に向けて、講師になったりとか、その方たちが作品を発表する場を設けたりとか、その世代の育成といったイベント等の事業計画はあるのか。

指定管理者 : 今年度、大学生のインターンシップを実施するので、例えばその機会を利用して何かできることはないか検討している。

委員 : Instagram 等の SNS は、この年代の人が利用者の中心かと思う。そういう方たちにアプローチするのは広報の面でも良い影響があると思っている。

委員 : スタッフへの接遇研修や人権研修等の、職員研修について具体的に聞きたい。

指定管理者 : 人権研修に関して去年は講座形式で実施。今年度は動画視聴の教育型研修を行なう予定。コンプライアンス研修は代表企業の吉本興業が従業員向けに行っている研修が十項目ほどあり、現場に行って受講するのは業務との兼ね合いで難しいのでオンライン参加の形を取ろうと考えている。

委員 : 文化施設なので様々な方がいて、ちょっとしたことで炎上したり、SNS への書き込みからよからぬ話が広まったりとか、本当に有り得る話なので、こういう研修をきちんとなさっているのは良いことだと思う。なかなかやる必要があると思ってもできないことも多いので、きちんとしているのでいいこと

- だと思った。
- 委員 : 昨年度からの課題である学芸員の配置について、その経営的マイナスの試算が出てるとい課題はあるにせよ、今年度から2名の学芸員の方が配置された。この方々の業務としてはコレクション整理のみならず、企画立案実施ということにも従事するということがよいか。
- 指定管理者 : はい。
- 委員 : 毎回懸念というか、代表企業がとても重要なポジションでいろいろお仕事しているのはわかるが、もともとの事業計画の2番目の目標でいうと、今まで使ってきたネットワークをそのまま踏襲してほしいというわけではないが、若い世代である中高大学生ぐらい、あるいはその次を担うアーティスト、あるいはキュレーターの方々の育成も重要だと思う。学芸員が来られたことで、御社のタレントさん以外の方々の参画により、もう少し広がりを持たせることを期待したいなと思っているが、そういうことは今後ありうるというふうを考えてよいか。
- 指定管理者 : まず、アーティストインレジデンスは昨年度に第1回を成功することができた。2回目も来年3月に実施することを考えているので、内容等はこれらるアーティストによって変わってくると思う。前回のアーティストの場合、地域の方々と一緒にワークショップをし、enocoでの展示、トークイベントの実施というおおまかな流れができた。その後、ご自身の活動に戻られても、「enocoは良いよ」と周囲に言ってくれているみたいなので、そういう形で終了後もつなげていけたらと思う。
- 委員 : 分かった。
- 委員長 : 最後に各委員から一言あればお願いしたい。
- 委員 : いろいろコメントしたが、事業計画書にかかっていることが達成されたら、本当に素晴らしいと思う。ただ、これも毎回申し上げているが、少ない人数でたくさんのかをやっていくことになるので、苦労も多いかと思う。ぜひ頑張っていたきたいと思う。よろしく願する。
- 委員 : 事業計画書を見ると、いろいろと工夫されており、今年度は前回の評価委員会での提言を受けて、アンケートの改修や反映に力を入れているのかと思う。年度途中であっても、そのアンケートをとった後に、それをフィードバックして、細かな軌道修正をしながら、年度を通して、よりよい運営をしてほしいと思う。
- 委員 : 前事業者の方からの引継ぎ等、想定外のこともあったかと思うが、一つ一つコスト面を見直して、今もされていると思うが丁寧な運営をよろしく願したい。
- 委員長 : ありがとうございます。評価基準は、一旦は「修正あり」ということである

が、本日委員の皆様方からいただいた意見・議論をもとに、事務局で評価基準を案として修正し、よろしければ、委員長で確認した後に、皆さまに結果をメール等でお知らせし、最終的な評価基準を確定したいと思うがよろしいか。

各委員 : 了

以上